



松山隼也くんが学年別で優勝

平成25年度大津地区防犯少年剣道大会

平成25年度大津地区防犯少年剣道大会が3月15日、大津町運動公園総合体育館で開催されました。大津警察署管内の菊陽町、大津町、合志市、西原村で剣道を学んでいる小・中学生の36チーム・203人が参加。互いに交流を深め、日頃の練習の成果を発揮しました。

菊陽少年剣道クラブの松山隼也くん(武蔵ヶ丘小学校)は、小学1年生の部で初優勝しました。松山くんは保護者に日頃の感謝を込めて「ありがとうございました」と満面の笑みでお礼のあいさつをしました。



▲小学1年生の部で初優勝した松山隼也くん

豊かな水資源を次世代へ

21世紀土地改良区創造運動大賞受賞

水土里ネット馬場楠堰が3月25日、21世紀土地改良区創造運動大賞を受賞しました。水土里ネットは土地改良区の愛称で、土地改良区とは水源の確保や水路や排水路の整備・管理、水田や畑地の整備などを行う農家の組織です。水土里ネット馬場楠堰は、取り組んでいる地下水かん養の推進や鼻ぐり井手祭を通じたPR活動、地元の小学校全学年を対象にした1年を通しての体験学習などの活動が全国の模範となる運動を展開していると評価され、大賞を受賞しました。



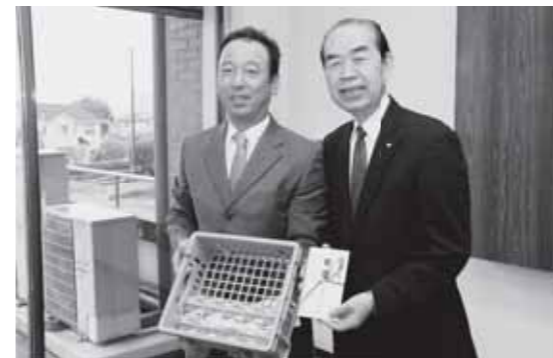
▲山本一弘理事長(中央左)、西村清喜副理事長(中央右)

牛乳飲んで健やかに育って

こどもの日牛乳消費拡大キャンペーン

熊本市酪農農業協同組合の相馬安伸組合長が4月30日、菊陽町役場で後藤町長に目録と牛乳を贈呈しました。これは、町内の酪農家で作られた同組合が子どもたちにもっと牛乳を飲んでもらおうと、毎年こどもの日に合わせて行っています。今年は町内の保育園と幼稚園に1,916個の牛乳が贈られました。

後藤町長は「牛乳のカルシウムは子どもの成長のために欠かせないものです。さらに牛乳の消費拡大につながればと思います」と感謝の言葉を述べました。



▲牛乳を渡す熊本市酪農農業協同組合長の相馬安伸さん(左)

長年の功績をたたえる

退任人権擁護委員に法務大臣感謝状贈呈

法務大臣感謝状贈呈式が4月16日、菊陽町役場で行われました。贈呈されたのは人権擁護委員を退任した改世順子さん(在任期間5期15年)と江藤由紀子さん(在任期間4期12年)の2人。長年の功績をたたえて感謝状が贈られました。受賞した2人は「地域に根ざした活動をしていく中で、毎年800人ほどの人々と共に学び、人権の輪が広がっていきました。私たちが多くを学ぶことができました。感動の日々でした」と受賞の喜びを話しました。



▲人権擁護委員に囲まれる江藤由紀子さん(中央左)と改世順子さん(中央右)

安心・安全な食を提供

ユーユーフーズ株式会社落成式

ユーユーフーズ株式会社(曲手)の増設工事が終わり、5月8日に落成式が同社敷地内で開催されました。

ユーユーフーズ株式会社は、平成元年8月に菊陽町曲手地内に立地し、主に熊本県産農畜産物を100%使用した冷凍米飯の開発・製造・販売を行っています。これらの製品は冷凍米飯愛食運動として展開。地産地消に積極的に取り組み、農業経営の安定化へとつながることを目指しています。今回新たに増設された製造ラインでは、生産量が現在の設備の約2倍の1時間当たり2トに拡大。徹底した品質管理を行い、安心・安全な製品を提供しています。

上村幸男代表取締役会長は「今後、ますます安心・安全な製品に対する需要は増加していく。今回、最新鋭の設備を導入したので、幅広いニーズと需要に対応することができます」とあいさつ。後藤町長は「この事業は、農産物に付加価値を与え国内外へ販路拡大を目指すもの。熊本県産農畜産物の振興を支え、グローバル化する経済の中で、農業を他に負けない産業へと発展させてもらいたい」と期待を込めました。



▲テープカットをする後藤町長たち



▲最新の設備が並ぶユーユーフーズ株式会社の工場内

現代に生きる先人の知恵

ロアッソ熊本の選手が鼻ぐり井手見学

日本一地域に根ざしたクラブを目指すロアッソ熊本の選手8人が4月29日、町指定文化財の歴史的農業土木施設「鼻ぐり井手」を初めて見学しました。

菊陽杉並木公園で行われた第7回はなぐりカップサッカー大会でサイン会をした後、選手たちは鼻ぐり井手を訪れました。菊陽町文化財ボランティアガイドの説明を受けた黒木晃平選手は「鼻ぐり井手の構造や役割が分かりました。昔の人はすごいですね。多くの人に訪れてほしいと思います」と感心した様子でした。



▲鼻ぐり井手の説明を聞くロアッソ熊本の選手たち

稚アユ大きくなれ

白川漁協が稚アユ2万5千匹放流

白川漁業協同組合(坂田拓穂組合長)が4月25日、白川で稚アユを放流しました。この日は1匹約5gの稚アユを2万5千匹放流。同組合は、毎年この取り組みを行っています。坂田組合長は「近年、天然のアユは減少している。白川はコケや石が多く、アユが育ちやすい環境なので、2カ月後には25~30gまで育つだろう」と話しました。放流に参加した佐藤里紗子さんと加奈子さん姉妹は「ぴょんぴょん跳ねて元気良かった。大きくなるといいな」と笑顔で話しました。



▲白川に稚アユを放流する子どもたち



満開の桜が題材

スケッチ大会／フォトコンテスト表彰式

第6回富士フィルム九州感謝 Day! さくら祭りで開催した「スケッチ大会／フォトコンテスト」の入選者表彰式が5月10日、菊陽町総合交流ターミナルさんふれあで開催されました。布留川朗さん(富士フィルム九州(株)取締役総務部長)のあいさつの後、スケッチは5部門169点中7作品、フォトは2部門30点中4作品の計11点が受賞作品として発表され、表彰を受けました。受賞者は「歌声が聞こえてくるような写真が出来上がりました」などと笑顔で話しました。

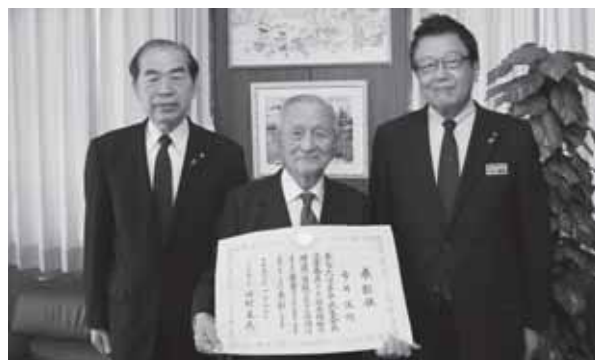


▲笑顔が絶えない和やかな表彰式でした

地域に身近な見守り人

民生委員・児童委員へ厚生労働大臣特別表彰式

民生委員・児童委員に対する厚生労働大臣特別表彰式が5月7日、菊陽町役場で行われました。民生委員・児童委員とは、地域住民の不安や心配事の相談に乗り必要な援助や助言を行う人々。今回の特別表彰は、毎年11月末日以前の1年間で辞職した75歳以上で、辞職日までに約15年以上の在職期間がある人が対象で、町では今井洸さんが表彰されました。今井さんは「地域を支えて、見守る重要な仕事。大変だがやりがいは十分あります。なり手になって」と話しました。



▲どこまででもやれる仕事だと話す今井さん(中央)

図書館ホールで遊びに夢中!

菊陽町図書館 きくよう・来・ぶらり

子どもの読書週間時期に合わせて開催されている菊陽町図書館主催の「きくよう・来・ぶらり」。5月3日と10日には、図書館ホールで親子で楽しく参加できる催しが開催され、連日大勢の参加者でにぎわいました。

5月3日には「飛べ! 紙ヒコーキ」と題し、いろいろな形の紙飛行機を作りました。特に、滞空時間の世界記録を持つ紙飛行機の制作は大人気。子どもたちは、ホール内を歩き交う紙飛行機に歓声を上げて喜び、夢中で飛ばしていました。「飛ばし方も習ったので、思ったより長く飛ばすことができた。とても楽しい。この紙飛行機が飛ばなくなったら家でも作って飛ばしたい」と子どもたちは満面の笑みを浮かべました。

5月10日には、「キャロッピーを描こう!!」を開催しました。参加者は菊陽町マスコットキャラクター「キャロッピー」とロアツン熊本マスコットキャラクター「ロアツンくん」の似顔絵を自由な発想で描きました。キャロッピーとロアツンくんは参加した子どもたちの絵の上手さに大喜び。キャロッピーとロアツンくんもみんなに負けじと絵を描きました。



▲滞空時間を測るため自分で作った紙飛行機を飛ばす子どもたち



▲キャロッピーとロアツンくんも絵を描きました